

禅会だより

# 長野禅会について

浦野 祖燈

(西東京支部・長野禅会)

## 1. 現在までの経緯

長野県の南部に位置する飯田市には、40年以上の歴史を持つ信濃禅会しなの（現在、東海第二支部所属の地区静坐会）があります。この会は、房総支部しゅうきょうの故緝熙庵内田慧純えいじゆん老禅子と濯月軒内田智鏡ちきやう居士ご夫妻が一時長野にお住まいであったのが機縁となり、故磨甗庵ませんあん老師のご指導のもとで、誕生した禅会であります。

この会はその後、房総支部から東海支部（当時師家：故寶鏡庵ほうきやうあん老師）の所属となりましたが、平成19年東海第二支部の誕生に伴い、当時の団員4名のうち、3名は南部の飯田地区で豊橋に近いため東海第二支部に移籍し、北部の長野地区の浦野祖燈のみが、首都圏に近いという理由で東京第二支部（現西東京支部）に移籍することになりました。

その頃から、長野県下最大の都市で、首都圏から新幹線で1時間半の長野市を中心に禅を広めたらどうかという葆光庵ほうこうあん総裁老師のご指導もあり、参禅会を開催するようになりました。

東京第二支部に移籍した頃から現在までの経緯は、次のとおりであります。

〔平成18年〕

（株）三ツ和建设（社長：祖燈）の協力会社社長・羽賀周二（雲関）入門（於岐阜東海道場）。

〔平成19年〕

（株）三ツ和建设の社員2名入門。春日敬一（宝徹）（於豊橋金西寺）

長田晋悟（牧牛）（於八王子村下道場）。

〔平成20年〕

社団法人信濃修禅会（会長：祖燈。平成21年4月登記）設立。この年より「社団法人信濃修禅会」の主催で参禅会開始（担当師家：金剛庵老師）。年間3回の参禅会が開催され、入門者は10名。

〔平成21年〕

2月（社）信濃修禅会の結成会開催（於信州松代ロイヤルホテル）。

4月 東京第二支部摂心会にて、古聲・大鏡・祖源・大雲・円鏡・雲月の6名に道号授与。

5月 教団記念式にて長野禅会設立（於本部道場）。

10月 総裁老師による講演会開催（長野市梅田屋）。参禅会は年3回開催。入門者3名。

## 2. 社団法人信濃修禅会の設立について

社団法人を設立したのは、次のような理由からであります。

一般社会では宗教に対する懐疑心が強いいため、宗教法人よりも社団法人の看板の方が活動しやすい。

近隣に教団の支部がないため、教団の様子を紹介することが難しく、理解されにくい。しかし、社団法人は地元長野の団体であり、自ら理事長（会長）をやっているので説明しやすい。

お寺や施設を借りるとき、宗教法人では断られるケースが多いが、社団法人であれば問題なく借りられる。

地域の商工会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、町内会



ライオンズクラブ講演会（H21.11.24）

の行事等に法人名をそのまま出して、講演会・坐禅会・お茶会等のイベントに参加できる。しかし、宗教法人では難しい。

公共施設や大学等では宗教団体の出入りは禁止されているが、社団法人であれば交渉次第で出入りが可能である。

以上が主とした設立理由であります。すでに入団していた羽賀雲関、春日宝徹、長田牧牛の3人からも宗教団体でない方がやりやすいという要望があり、設立に踏み切った次第であります。

### 3. 活動状況

長野地区の禅寺では静坐会は日常的に行われており、特に会員2万人を擁する「活禅寺」が同じ長野市内にありますので、活禅寺や他の禅寺と差別化する必要があるため、「参禅会」を中心に活動しております。

参禅会の会場としては、開眼寺、福德寺、大英寺の3カ所をお願いしていますが、それぞれに一長一短があり、また地区を広げるためにも、もう2、3カ所借りられるお寺を増やしたいと考えております。

また、布教活動の方法としては、「知人誘致」を主としており、「広告媒体」等により参禅会にお誘いするという手法は、今のところやっておりません。

不況の影響で、我々の仕事はますます厳しくなる傾向にあり、日常生活とは別の所で布教活動の時間を設けている余裕がほとんどないため、仕事仲間等を対象とする「知人誘致」以外に手を広げられない、というのが実



第1回参禅会(開眼寺。H20.6.8)

は本音の所であります。

しかしその結果、自社の社員や取引先、地区商工会、ライオンズクラブ等から入門される方が増えてきており、平成21年11月末現在で入門者16名（うち入団者10名）という陣容になっております。

#### 4．今後の展望

長野禅会のメンバーのほとんどは中小零細企業の経営者及びその従業員であります。政権交代後も経済状況はますます厳しく、景気の直撃をまともに受けるメンバーだからこそ、禅の必要性を皆が感じており、潜在的ニーズを喚起すれば仲間は加速度的に増えていくだろうと考えております。

しかし、いくらニーズを喚起しても、こちら側の器量が小さければ、なかなか人は集まりません。長年修行され、また多くの公案を透過された方でも、社会的な実績が伴っていなければ、いくら禅を説いたところで誰も聞く耳を持たないのが現実です。

特に、中小企業の経営者は禅に対するニーズが高い反面、禅をやっている人の生き様や、社会における業績に対して極めて敏感であります。そこが居士禅の布教の難しいところかもしれません。

いずれにしても、当面は入門者を増やすことが禅会の主眼です。（社）信濃修禅会の主催による参禅会を年3回以上開催し、講演会などを絡めながら、既存の形式にあまりとら囚われないで、会員の拡大を図りたいと考えております。

合掌

#### 著者プロフィール



浦野祖燈（本名／喜一郎）

昭和30年生まれ。千葉大学理学部卒業。建設業その他の会社経営。昭和53年、人間禅白田劫石老師に入門。現在、人間禅布教師。